

[6] 高原町小体連 (学校数 4校 431名)

## I 年間事業

期 日	回	内 容
5月 7日 (金)	第1回	役員選出、規約確認、年間計画の確認
6月26日 (火)	第2回	本年度研究の方向性の検討、水泳大会計画案の検討
7月24日 (火)	第3回	水泳大会前日準備、名簿作成等
7月25日 (水)	第4回	水泳大会実施 ※予備日：26日 (木)
8月 9日 (木)	第5回	水泳大会賞状作成、宮崎県学校体育研究発表資料検討
8月30日 (木)	第6回	陸上大会計画案検討
10月15日 (月)	第7回	陸上大会前日準備、名簿作成等
10月16日 (火)	第8回	陸上大会実施、記録整理、賞状作成 ※予備日：18日 (木)
2月21日 (木)	第9回	本年度の取組のまとめ、次年度への引き継ぎ、会計報告等

## II 事業部のあゆみ

### 1 水泳大会

- (1) 大会名 平成30年度高原町小学校体育連盟水泳大会
- (2) 実施日 平成30年7月25日 (火)
- (3) 会 場 高原町立高原小学校プール
- (4) 出場者 高原町内各小学校5・6年生代表児童 (延べ人数 約100名)
- (5) 実施種目
  - ・ 25m (自由形、平泳ぎ) ・ 50m (自由形、平泳ぎ)
  - ・ 200mリレー
- (6) 競技方法
  - タイムレースとする。
  - 出場は、リレーを除いて一人2種目まで参加可能とする。
  - 競技は、学年別、男女別に実施する。
  - 競技規則は、県小体連競技規則に準じ、細部については町小体連で定める。
- (7) 日 程

開会式	8 : 5 0	競技開始	9 : 1 0
競技終了	1 1 : 0 0	閉会式終了	1 1 : 3 0
- (8) 表 彰
  - 各種目3位まで表彰し、参加者全員に記録証を授与する。
- (9) 反 省

練習期間が少ないにも関わらず、参加児童は持てる力を精一杯発揮した。今年度は、各学校の先生方の指導のおかげで事故がなく、また大会新記録が出るほどの素晴らしい大会であった。また、シャワーを常時出したり、プールサイドを常に水で冷やしたりするなど、熱中症対策を行ったことで、一人も熱中症を訴える児童・職員がおらず、無事に大会を終えることができた。

## 2 陸上大会

- (1) 大会名 平成30年高原町小学校体育連盟陸上大会
- (2) 実施日 平成30年10月16日(火)
- (3) 会場 高原町立高原小学校運動場
- (4) 出場者 高原町内小学校5・6年生児童(延べ人数 約140名)
- (5) 実施種目
  - ・ 一般走100m(5・6年生男女)
  - ・ 800m走(5・6年生女子)
  - ・ 400mリレー(5・6年生混合男女)
  - ・ 走り幅跳び(5・6年生男女)
  - ・ 選抜走100m(5・6年生男女)
  - ・ 1000m走(5・6年生男子)
  - ・ 走り高跳び(6年生男女)
  - ・ ソフトボール投げ(5・6年生男女)

### (6) 競技方法

- 出場は、一人2種目まで参加可能とする。2種目出場の際は、トラック競技とフィールド競技の各1種目ずつとし、トラック競技のみ、あるいはフィールド競技のみ2種目としないようにする。また、リレーに出場する場合のみ、3種目まで出場できるものとする。
- 競技は、学年別、男女別に実施する。
- 競技規則は、県小体連競技規則に準じ、細部については町小体連で定める。

### (7) 日程

開会式	8:30	競技開始	9:00
競技終了	11:00	閉会式終了	11:15

### (8) 表彰

- 各種目3位まで表彰し、参加者全員に記録証を授与する。

### (9) 反省

天気に恵まれ、児童が自分の力を十分に発揮できた大会であった。役員数が少ないため、中学校の体育科の先生にも役員を依頼した。先生方の協力で、全ての競技の安全面に留意しながら、実施できたので大変良かった。

## III 研究部のあゆみ

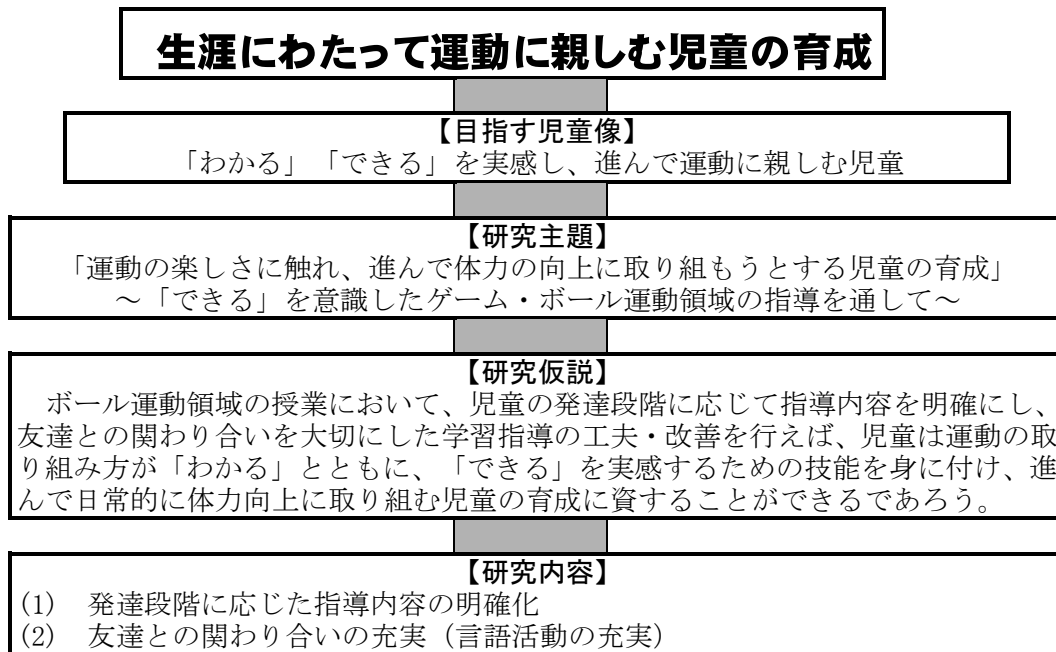
### 1 研究主題・副題

「運動の楽しさに触れ、進んで体力の向上に取り組もうとする児童の育成」  
～「できる」を意識したゲーム・ボール運動領域の指導を通して～

### 2 主題設定の理由

本町は、野球やサッカー、バレーボール、剣道等、スポーツ少年団活動がさかんである。児童の実態として、スポーツ少年団に所属している児童と所属していない児童との格差が大きいことがあげられる。スポーツ少年団に所属している児童も、自分の取り組んでいる特定のボール運動は得意だが、それ以外の運動は苦手な児童がいたり、運動に関する興味関心も、所属している児童とそうでない児童との格差が大きかったりする。特に、興味関心が高くない理由として、運動の経験が浅い児童は、「できる」という実感を体験していないため、運動の楽しさを味わえていないことが考えられる。そこで運動への取り組み方が「わかる」、「できる」ことを実感させることが大事であると考え、本主題を設定した。

### 3 研究の全体構想



### 4 研究仮説

ボール運動領域の授業において、児童の発達段階に応じて指導内容を明確にし、友達との関わり合いを大切に学習指導の工夫・改善を行えば、児童は運動の取り組み方が「わかる」とともに、「できる」を実感するための技能を身に付け、進んで日常的に体力向上に取り組む児童の育成に資することができるであろう

### 5 研究の実際

#### (1) 発達段階に応じた指導内容の明確化

##### ① ルールの変更

運動の楽しさを味わわせるためには、「できる」ことを実感させなければならない。技能面の個人差を解消し、苦手な児童にも参加しやすくするために、ルールを工夫した。

#### 【ソフトバレーボールの実践例】

ソフトバレーボールのルールにのっとる。しかし児童がボール操作をしやすく、また戦術を考えられるように、一部分のルールを下のように変えた。

<input type="radio"/> 4対4でゲームを行う。	<input type="radio"/> 投げてサーブをしてもよい。
<input type="radio"/> ボールをキャッチしてもよい。	<input type="radio"/> ボールをもって動いてはいけない。
<input type="radio"/> 4回目で相手に返す。	<input type="radio"/> ボールは1人1回だけ触れる。

ボールを弾くというボール操作の代わりに、キャッチしてよいというルールを設けることにより、児童が安心してソフトバレーボールに取り組めるようにする。ただし、キャッチボールにならないように、仲間につなげることと、ボールをもって動いてはいけないこと、そして4回目に攻撃してよいというルールを加えることで、「ボールをもっていないときの動き」についての技能を身に付けさせる。

② ボール慣れの時間の設定

技能面のレディネスをそろえるために、位置付けた。

【キックベースボールの実践】

ゲームの前に、基本となるボールをキャッチする、投げる、遠くに蹴るといった技能を身に付けさせるための練習を設定した。キャッチボールをするときに、ボールを投げる際の足の踏み出し方、ひじや体の使い方を意識させ、正確に相手に投げる、そしてキャッチすることを反復練習させた。



(2) 友達との関わり合いの充実（言語活動の充実）

児童同士でよかった点や、技能向上のためのアドバイスをしあうことで、教師主導ではなく、児童が主体的に運動に取り組もうとする態度を育てる上で有効であると考えた。

【ソフトバレーボールの実践例】

4回目で攻撃するためにネットの近くで、相手のいないところにボールを返すというポイントを押さえ、ボールをもたない人はどう動けばよいかをホワイトボードと磁石を用いて考えさせた。



6 研究の成果と課題（○・・・成果 ●・・・課題）

- それぞれのボール運動の特性を理解し、ルールを工夫することで、児童は技能面の格差を小さくでき、「できる」を実感しながら楽しく活動することができた。
- 身に付けさせたい最低限の技能を、一単位時間の中に習得、練習する時間を設定し、友達同士で教え合ったり、グループでめあてや作戦を決めたりすることで、運動への取り組み方が「わかり」、意欲的に活動することができた。
- 少人数でも楽しく活動できるルールや場の設定の工夫
- ボールを使った運動の日常化

IV まとめ

水泳大会及び陸上大会では、5・6年生の先生方を中心に、高原町内の先生方と協力して運営していくことができた。今年度は、新燃岳の噴火の心配はあったが、無事に大会を終えることができた。研究関係では、昨年度から引き継いだ「できる」ことを意識した体育科学習指導の在り方を県学校体育研究発表大会にて発表することができた。この研究を生かして、高原町内の小学生の体力向上に努めていきたい。